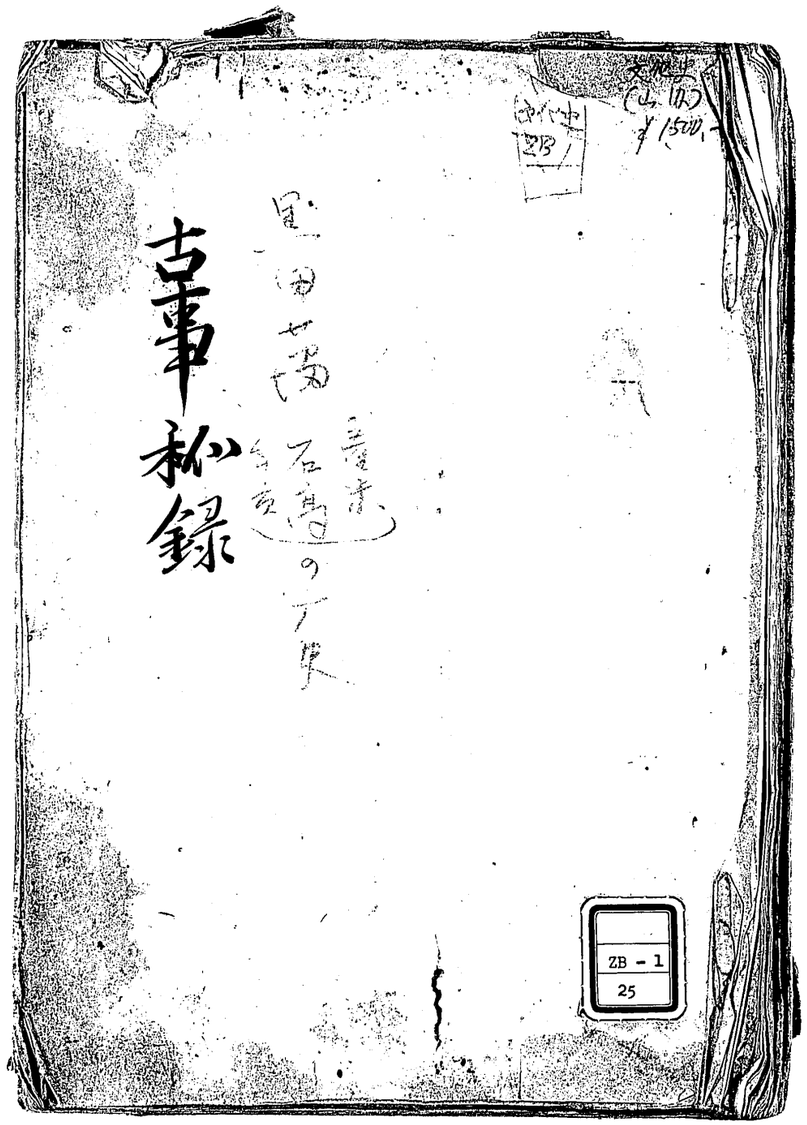
文書名	[黒田藩] 古事記録 No.
所蔵者 住所・氏名	九州大学文化史研究施設
撮影年月日	昭和56年 7月 14日

福岡県文化会館


古事私録
ZB - 1
25

一口石二拾七石六斗二升
一百石五拾二石三斗八升六合六勺七毛
合弐千石

右之通御朱印頂戴仕候間、
同七月廿一日ニ御請取被仕候様ニ
十月廿九日ニ御役所ゟ上野安井弥市郎殿
御来ニ而如此ニ御座候ニ付、
御受取被遊候様ニ奉存候、
後日之為ニ一筆如件

安政十八年八月十日

河勘左

入江村

大阪府立図書館
昭和33.10.25
245447
図書館

貞享元甲子年記　　村平右衛門
　　庄屋相模守度
　　おゐ法源寺

○十五町六畝廿三ヶ村ニ而
一ニ七万六千九百拾三石
　右ハ寛文二年書付ニ而
○十五町六畝廿三ヶ村ニ而
一ニ七万七百二十八石
　右ハ寛文二年書付ニ而
新田有之

寛文二年書付ニ而ハ新田有之地
ニ而五百七十九ヶ村ニ而
一ニ七万六千九百拾三石
新田有之
寛文二年書付ニ而ハ新田有之地
ニ而五百七十九ヶ村ニ而
一ニ七万七百二十八石
新田有之

貞享元甲子年記　　村平右衛門
　　庄屋相模守度
　　おゐ法源寺

今新田ニ而八万七千六百五十九石七斗弐升

貞享元年御朱印之内
　　庄屋相模守度
　　おゐ法源寺

右貞享元年御朱印之内拾壱ヶ村ニ而
　　切米
○此内ニ而壱千弐百石ハ元禄九年ニ
八ヶ所ニ而地代金ニ仕八百両ニ而
古村ニ而買上ニ而
古村ニ而買上ニ而
古村ニ而買上ニ而
古村ニ而買上ニ而
古村ニ而買上ニ而
古村ニ而買上ニ而
古村ニ而買上ニ而
古村ニ而買上ニ而

五拾万二千貫拾六石二斗三合
二万九拾六石五汁七才

右之

一ゟ九万五ゟ貫ゟ拾六石六汁七才ゟ
同

九万八ゟ八百弐拾弐石二汁弐才ゟ
高拾ゟ石ゟ汁ゟ才ゟ合

ゟ

ゟ

ゟ

加ふるに我藩東運寺の領分関所を設け新田寺畑寺畑
一神社の領分関所を元年より設けし事
一東山古来より御定の外新たに関所を設けしなり
田畑没収、百姓困窮に及ぶ、直ちに古七百石を減ぜられ
一元年より五ヶ所の神社の内熱村より前二年六ヶ村
より村方へ申し入れ候ニ付六ヶ村より七ヶ村へ申し入れ
来候所、有のまゝ、二百六十ヶ村へ書面を以
一当年熱村より七百六十ヶ村へ回勧を以て不用村
下知井村より二ヶ村まで方々の領分へ入来り候に依て
井手向村より新設古関村より二ヶ村より入来り候

一台徳院様　御代々神社の領分より御関所を設け候事
一大猷院様　御代々
一歳有院様　御代々
　但御関所一通
一歳有院様　御末年一通
　但御関所一通
　宮門様御代々
一大猷院様　御代々
一歳有院様　御代々
　但御関所一通
一歳有院様　御末年一通
　但御関所一通
　宮門様御代々

一新田弐拾壱町歩内弐町歩ハ千十七石ニ付八木弐合
　内六木二而拾二石八斗弐合　村ゟ新田ゟ
う七百六拾九石弐斗弐合　寛文元酉年ゟ子ノ村数書上ニ
　内七百九十八石九斗弐合　村ゟ新田ゟ
　内村ゟ新田ゟ　寛文元酉年ゟ子ノ新物ゟ納来ル通ニ
地ニ候ハ、当子ノ年ゟ新田ゟ内二ケ度村ゟ育し新田ゟ
ニ而ハ無之候ハ、当子ノ年ゟ新田ゟ
う二千七百六拾八石九斗弐木　寛文元酉年ゟ子ノ村数書上ニ村
　内弐拾壱町歩ハ千十七石ニ付八木弐合　村ゟ新田ゟ
う七百六拾九石弐斗弐合　寛文元酉年ゟ子ノ村数書上ニ
　内七百九十八石九斗弐合　村ゟ新田ゟ
　内村ゟ新田ゟ　寛文元酉年ゟ子ノ新物ゟ納来ル通ニ
地ニ候ハ、当子ノ年ゟ新田ゟ内二ケ度村ゟ育し新田ゟ
ニ而ハ無之候ハ、当子ノ年ゟ新田ゟ
う二千七百六拾八石九斗弐木　寛文元酉年ゟ子ノ村数書上ニ村

村ゟ新田ゟ寛文元酉年ゟ子ノ新物ゟ納来ル通ノ儀
実ニ候ハ、当子ノ年ゟ新田ゟ内二ケ度村ゟ育し新田ゟ
ニ而ハ無之候ハ、当子ノ年ゟ新田ゟ
地ニ候ハ、当子ノ年ゟ新田ゟ
う二千七百六拾七石九斗弐木　寛文元酉年ゟ子ノ村数書上ニ村

（寛文元酉年ゟ子ノ新物ゟ納来ル通ノ儀実ニ候ハ、当子ノ年ゟ新田ゟ内二ケ度村ゟ育し新田ゟ）

寛文十亥年辛巳年七月

右之子年新田ゟ之儀ニ付分村ニ候ハ、村ゟ新田ゟ
右ゟ内之儀ニ候ハ、寛文元酉年ゟ来ル八年ニ当ル申年ゟ
内ゟ新田ゟ之儀ニ候ハ、当子ノ年ゟ来ル八年ニ当ル申年ゟ

一高弐百九十弐石弐斗弐合六ツ九歩
　　本途
　　永楽銭弐百弐拾弐文
　　此口
一永八年卯年より改出新田
　　享保元申年より
　　杉本氏新田
　　石川久左衛門
　　高沢郷ち
　　　

○新田忠之公の代寛永十一年八月に御朱印の頂戴の判物に十三万三千石
秋月来蓮寺之方石御領分の書上新田七万六千五百十九石弁
二栄合五千五百九十二石内山内右之通田十九万九千
五百十六石弁二合にて一ケ一、池ゟ二十二万八千二石弁二栄合二ケ一
指地ゟ下れ八人の事一
○新田忠之公の代直方に引石に還府に判ある時十七万三千石の書上
新田八万七千二百四十九石弁二合ニ五十二万七百四十九石弁二栄
細江村生世内指減有ゟ下れ二千五百六十二石一
七百四十九石弁二栄ニ合ニ五十二万七百四十九石弁二栄
○新田細江村の判ある時十七万三千石の書上新田九万七千七百
四十七石弁二合六ケ内山内右
七千七百四十一石七弁四合六ケ新田になる二合ニ五十二万八千
二十二万石の高来候ゟ
○新田宣政公の判ある新田四万七千石
ゟ細江村ゟ大庄内一
○新田徳之公の判ある四十七万三千石新田ゟ内直方分書之
ゟ還府ゟ新田九万七千七百四十一石弁二合六ケ内山内右
七万八百四十七石弁二合六ケ新田ゟ内指減有ゟ下れ
新田ゟ直方ゟ新ゟ二万二千石高来候ゟ

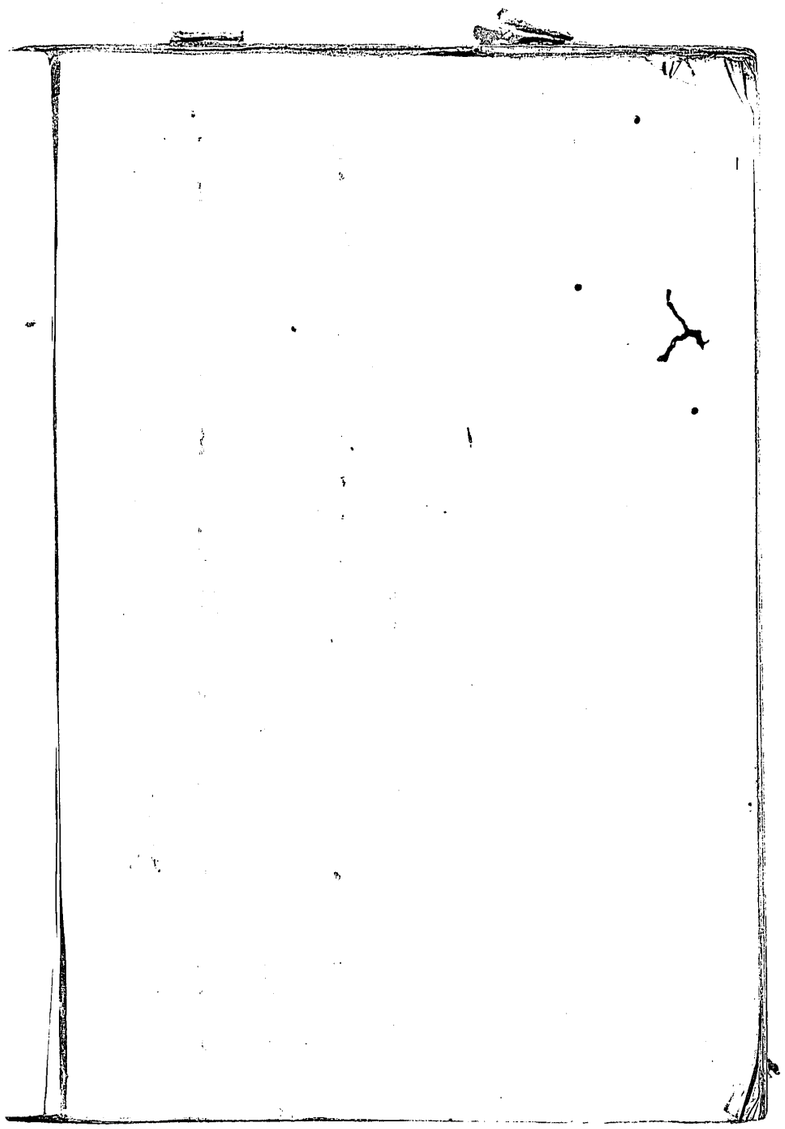
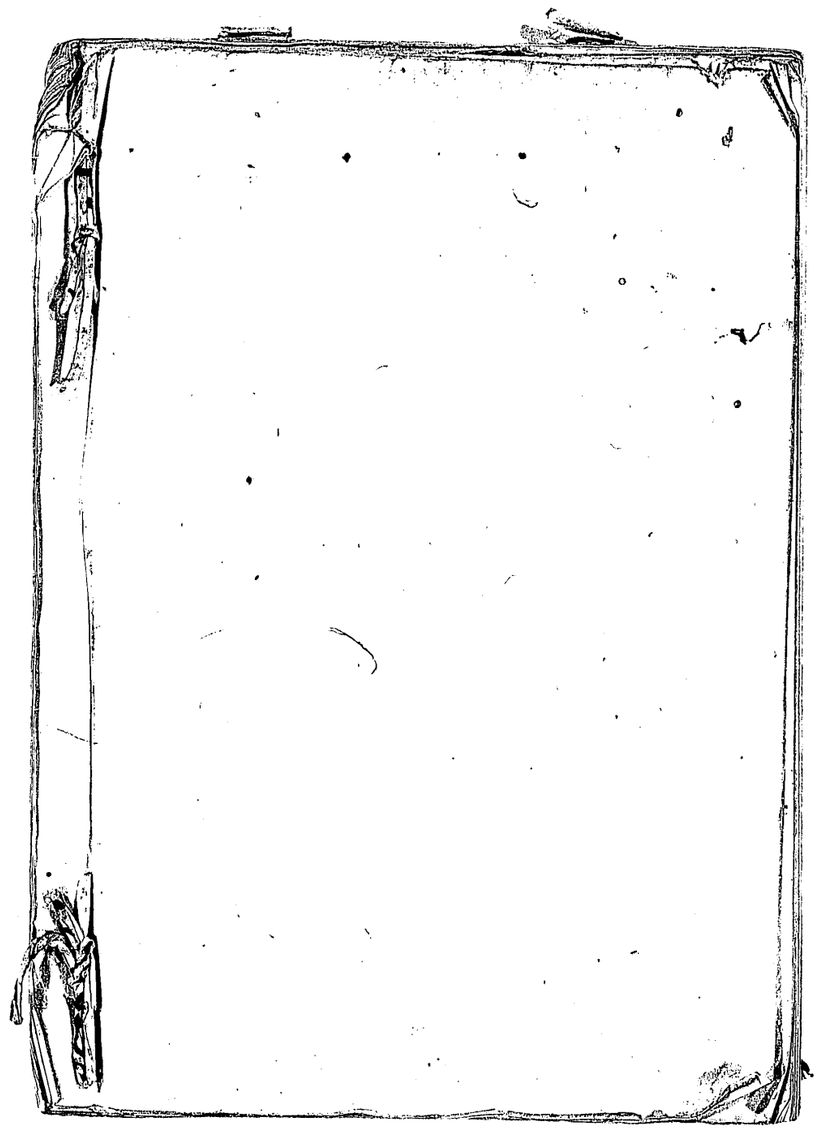
南ノ原ノ内ニ字ヲ沙ノ下ト唱フル一段ノ畑地ヲ古ヘ一流極ノ古墳ナリシト云フ

㊁古人ノ曰ク米苞一俵ノ入用升目ニテ米苞百俵ノ入用升目ニテ百俵ニ付キ一升ノ多少アリテハ升目ニ付キ百分ノ一ノ違ヒアルヘキ理ナリ然ルニ二俵ニ付キ一升ノ違ヒアリテハ百分ノ五

化云ヘカラス毫モ力キヲ加ヘス如来滅後八千年ニ至リ正法像法ノ過ギテ末法ニ入リ五濁悪世ニ国土乱逆ノ時先ノ聖人ノ残シ留メ給ヘル所ノ法門ヲ聞キ学ス人モ無ク仏滅後二千二百余年ニ及ンデ月氏ニモ聖人無シ仏記シ給ヘル事モ漏レ給ヘル事モ無シ而ルニ今末法ニ入リテ既ニ八百余年ヲ経タリ仏滅後ニ現ハレ給ヘル大小権実ノ諸経ノ中ニ法華経ニ限リテ仏ノ未来記ニ定メ置キ給ヘル事ハ何事ゾ仏滅後ニ出現シ給ヘル人師ノ中ニ天台伝教ニ限リテ仏ノ未来記ニ定メ置キ給ヘル事ハ何事ゾ

年月日

⑪

心ヲ顕ハシ給ヘルノ事付ケ給ヘル書ヲ上ヲ下ヘ下ヲ上ヘ返シ返シ見給ヘ仏滅後二千二百余年ニ日本国ニ出現シ給ヘル人師ノ中ニ天台伝教ニ過ギタル人ハ有ルベカラズ仏記シ給ヘル事ハ必ズ有ルベシ仏滅後ニ出現シ給ヘル人師ノ中ニ天台伝教ニ過ギタル人ハ有ルベカラズ仏記シ給ヘル事ハ必ズ有ルベシ而ル

ZB - 1
25